

株式会社 百五銀行

インフォメーション・ミーティング（2025 年度決算説明会）における主な質疑応答

【質問①】

- Q.** 今期の資金利益の計画について。昨年度も減益の計画になっていたかと思うが、実際には 100 億円程度の増益で大幅に上振れている。そういった意味では今期の計画も保守的過ぎるのではないか。現実的に金利が上がらないとしても、どの程度、資金利益のアップサイドがあるのか。
- A.** 資金利益は 2027 年 3 月期において前年比減益となる計画だが、前期は投資事業組合のエグジット 19 億円と投資信託の解約益 15 億円（計 34 億円）の一時的な要因が含まれている。これらを除いたベースでは増益基調であると認識している。また、今期計画は政策金利 0.75%を前提として保守的に作成しており、金利引上げの動向が不透明であるため、慎重な見通しとしている。

【質問②】

- Q.** 資金利益の計画に、円債のロスカット・入替計画に伴う利回り上昇などの金利上昇の恩恵は織り込んでいるか。
- A.** 一定程度は織り込み済み。低利回り債の入替は状況を見ながら追加もあり得る。その際は利回りが上がる形になると思っている。

【質問③】

- Q.** 住宅ローンは 2024 年度より獲得目標を見直しているとのことだが、債務者預金の確保といった観点で見れば RORA が高いという見方もあると理解している。現時点ではどのような地域と顧客層に重点を置いた営業を行っているのか。また、債務者預金確保についてどのような手応えがあるのか。
- A.** 住宅ローンの年間獲得目標は住宅着工件数の減少を踏まえ現実的に設定している。目標を下げているものの、現在の目標である 2,000 億円でも高い水準である。残高水準は地銀内でも上位であり、それほど消極的であるとは考えていない。重点地域について、三重県は住宅着工件数が低調で愛知県中心に展開しているが、愛知県でも着工件数が減少していることもあり、慎重な対応が必要と考えている。

特に愛知県では、住宅ローンを新たに契約いただくお客さまは、当行と初めて取引をいただく場合が多い。新規のお客さまには口座開設・スマホ banking・決済性預金の利用を条件としており、そういった意味では預金が増える。ローンの実行当初は返済資金優先で残高は伸びにくいですが、返済が進むにつれて余裕資金が発生する。イデコや NISA 等で取引の深耕を図り、コアな預金の獲得につなげる。

次ページへ続く

【質問④】

Q. 周辺地銀の統合が営業体制に与える影響と、統合に対する御行の考え方は。

A. 三重県、愛知県の銀行統合については他行のことであり具体的な話は難しいが、三重県内では従来からの競合があり、競合関係が急激に厳しくなることはないと考えている。ただし、規模の利益で新組織の力が強まるため、対応の強化が必要。名古屋地区では規模の拡大でソリューション能力が上がるため、戦略を練り直す必要がある。統合はお客さまを含むステークホルダーの理解が不可欠で、規模の利益だけでは不十分と考えていることから、まずは自行できることをしっかりと行い、そのうえで、最初から統合を選択肢から外すわけではなく、最適な対応を考えていく必要がある。

以 上